



村小だより

令和2年6月12日発行

お力添えに 感謝して

校長 鈴木 正美

例年の光景ですが、この時期学校の玄関前では、ツツジのピンクが彩りを添え、松を取り囲む茶木も柔らかに艶々した新芽を空に向かって伸ばしています。加えて、臨時休業中に準備したプランターのベコニア、マリーゴールド、サルビア等も花盛りです。その脇で、次の出番を待つ紫陽花がスタンバイしています。村上も入梅の時節を迎えました。

さて、新年度がスタートしてからのこの間、例年になく臨時休業、分散登校等にもかかわらず、毎朝、ボランティアで子どもたちの登校を見守り、声をかけてくださったり、中には学校まで来てくださったり、「ながらパトロール」の皆様をはじめ、多くの皆様のおかげで、子どもたちは大きな事故に遭わず、安全に登校することができています。誠に有り難く、心から感謝申し上げます。

学校再開から約40日、子どもたちは、「3密」を回避する行動を意識しながら、徐々に通常の学校生活を取り戻しつつあります。今後とも御理解と御協力、よろしくお願いいたします。

<6/2 全校朝会:校長の話から>

通常登校が始まって2週間たちますが、あの日(5/20)の放送朝会で、私はこんなことを話しました。

◆いつも通り登校することは「当たり前、普通なこと」と思っていました。でも、今回はいつも通りにならない時間が長かったので、「当たり前なこと」って、「有り難く、幸せなこと」と改めて思いました。今日から様々な活動が再び始まります。「元気いっぱい、楽しさいっぱいの村小」を、みんなでつくっていきましょう。そのためには、今は、新型コロナウイルスから身を守るために、大人も子どもも、やるべきことを確実に行うことがとても重要です。その結果、新型コロナウイルスの流行が弱まれば、今は「やれないこと」も、少しずつ「できる」ようになるはずです。(略)◆

さて、あれから2週間、やるべきことを確実にやってきたお陰か、県内では流行が押さえられている状況だそうです。少しずつ「できること、やってよいこと」が広がっています。でも、油断は禁物です。「登下校のときはマスク」「体育や運動のとき以外はマスク」「教室に入る前に石けんで手洗い」「十分な換気」等はこれからも続けましょう。

ここ2週間、みなさんの様子を見て、少しずついつもの調子を取り戻して、元気が出てきたなあと感じることが多くなり、喜んでいます。その中で、特に嬉しいのは、学習や生活、遊びの中で、「できるようになりたい」という強い気持ちでがんばり、できるようになっている村小っ子がたくさん見られることです。「おはよう・こんにちは・さようならのあいさつができる」、「給食を残さず食べることができる」、「習った平仮名・カタカナ・漢字等を書くことができる」、「友達と仲良くできる」、「当番や委員会の仕事、花や野菜の水やりを忘れずにできる」、「安全に気を付けて運動遊びができる」、「自転車や一輪車等に上手に乗ることができる」、「失敗したとき、ごめんなさいができる」、「困っている子を助けてあげることができる」、まだまだ、「もっと他のことができるよ」と言う子は、まだまだたくさんいると思います。

各学年でいろんなことにチャレンジして「できることを増やしてほしい」と思っています。そして、そのチャレンジを楽しんでください。私は、チャレンジするみんなの姿を見ることを楽しみたいと思います。